

2025 年度 事業報告書

2025 年 1 月 1 日～12 月 31 日





魚から考えよう 大地(酪農業)と海(漁業)をつなぐ川の未来
第3回はまなか環境意見交換会





特定非営利活動法人 シマフクロウ・エイド

【2025年度 事業報告書】

定款事業名	実施者	事業名	事業内容	時期	人数
保護・保全事業 <研究部門>					
シマフクロウの保護・保全及び支援する事業	自団体	給餌の利用状況調査 	釧路総合振興局管内に生息する既存ペアが利用する給餌池において、赤外線カメラ映像による24時間体制で、成鳥及び幼鳥の採餌状況、利用頻度、繁殖行動などについて基礎データを取得した。	通年	1
	自団体	論文投稿	2017年1月～2020年1月迄に取得した給餌の利用状況調査結果を解析し論文にまとめ、令和7年3月に釧路市博物館紀要にて刊行された。 論文は、釧路市博物館の公式ウェブサイト及び北海道自然史研究会ウェブサイトなどで全文が一般に公開する他、基本情報は科学技術振興機構(JST)が作成するデータベース等に登録された。	3月	3
	自団体	行動圏調査	上記調査結果を詳細に分析したところ、本つがいが特定の季節に人工給餌池以外の餌場を利用していることが体重の変化、給餌池の利用、目視による調査結果から示唆されたため、その解明に向けた鳴き声、踏査、センサーカメラによる行動確認調査を実施した。	9月～ 12月	3
	自団体	補助給餌 	繁殖を補助する給餌池への給餌や井戸の管理として、活魚補充時の対応、死亡した活魚の除去、給餌池や井戸及等維持管理、日中のワシ類等の食害対策を通年実施した。給餌池には、給餌池は成鳥ペア及び幼鳥1羽が強風等の天候を除き通年に渡り日没後～夜明け前後迄利用したことを確認した。 昨年12月11日の暴風雪による風倒木で数か所電線が切断され16日午後まで停電が続き、その間、給餌池は発電機による通電でポンプを作動させていたが、長期間稼働していたため、不具合を起こしその間通水が出来ずに活魚の大半は死滅し、またこの間に通水管も凍結してしまい、現在は別ルートで井戸から給餌池までの通水を行っている。	通年	2

	自団体	繁殖確認調査	釧路総合振興局管内において複数の既存ペアを確認しているエリアにて繁殖確認調査を適期に実施した結果、1ペアから1羽の幼鳥の巣立ちを確認した。		1
	自団体	巣箱内調査	釧路総合振興局管内に生息する既存ペアの繁殖時の餌種解明を目的とした調査を実施した結果、今年は2卵中1卵が孵化に成功し、幼鳥のふ化から巣立ち前まで断片的静止画像を取得した。カメラの動作不具合が発生し電波状況の安定が取れず採餌状況についての映像は取得出来なかった。本事業は環境省のシマフクロウ保護事業に成果を還元するものである。		2
保護・保全事業 <環境保全部門>					
シマフクロウの保護・保全及び支援する事業	自団体 釧路総合振興局	政策提言	観察を続ける3つがいの生息環境の長期的な生態系の改善や保全に向けて、森林関係機関と河川や山地など包括的な保全方法等について確認し、制度に基づいた包括的な生息環境の保全が進められる確認を得た。	11月	7
	自団体 カワシンジュガイ類の研究者協力 町民有志 地方大学生	カワシンジュガイ類と寄生魚に関する調査  	地域の身近な河川の健全性を指標となる生物を通じて確認する目的で、浜中町内の太平洋側水系及び内陸の水系の2河川にて、淡水二枚貝のカワシンジュガイ類の年齢構成を確認するためコドラート調査を実施した。また、稚貝時期に寄生関係を持つサケ科魚類の寄生確認調査を釣りで行った。 結果、太平洋側水系では、水温・河床の礫については適切で、サケ科魚類への寄生も確認できたが、20歳未満、10歳未満の若齢個体数は少ない割合だった。内陸の水系においては、環境条件は適切でサケ科魚類への寄生も確認、若齢個体が多い割合で確認できた。成貝の殻長も全て測定した結果、両水系にて1970年～80年代を中心に個体数が激減していることが分析によって確認出来た。 調査結果を本貝類研究者と共有した結果、道東の他河川においても個体数激減期は、酪農振興が急速に進んだ年代とリンクしていることを確認した。 調査にあたり北海道から特別採捕許可を取得し実施した。調査には町民有志、地方大学生の協力を得た。採捕した貝類・魚類は調査終了後速やかに放流した。	6月 7月	12 5

シマフクロウの保護・保全及び支援する事業	自団体	<p>遡上サケマス調査</p> 	<p>昨今のサケ・マス類の遡上が減少傾向であることから、浜中町内において過去遡上が顕著であった3河川を選定し、近年遡上が激減している1河川も加え合計4か所の河川を対象に、センサーカメラ調査を7月下旬から11月に実施した。結果、1河川のみでサケマスの遡上及び捕食動物等のデータを取得した。</p>	7月～ 11月	2
	自団体	<p>川の生きもの観察会</p> 	<p>身近な河川への町民の興味関心を推進する目的で、川の生きもの観察会を6名と実施し、ヤマメ、アメマス、エゾトミヨ、スジエビ、ヨコエビ類、フクドジョウを採捕し水槽に入れて観察した。また遡上してきたサケも数尾目視で観察した。</p> <p>実施にあたり北海道から特別採捕許可を取得し開催した。採捕した魚類は観察後速やかに放流した。</p>	9月	6
	自団体 北海道釧路総合振興局林務課・森林室 森づくり指導者、	<p>生息可能環境の保全再生(協定事業) 浜中町 森里海をつなぐシマフクロウ地球の森作り</p>  <p>成長したダケカンバ等</p>	<p>今年度も、シマフクロウの生息可能息の保全・回復・拡大と、関係地域の農林水産業の持続的保全、北海道知事が公約としたシマフクロウの森の再生の同時解決を目指した協定に基づく水源林の再生を、北海道、自治体、地元漁協、森づくりアドバイザー、地元小中学校と連携し推進した。</p> <p>森づくり協定5年間の再生面積はのべ7200㎡となり、種子散布が予測される5年後以降は軽量級～重量級の種子が風や雨、河川、野生動物等によって拡散され、在来広葉樹種の生息域拡大が期待されている。植栽には、地元小中学生、漁協婦人部・青年部等、農林課、町民のべ330人が参加した。今年3月には協定を更新し今後5年間でさらに水源林再生域を拡大予定である。</p>	5月 10月	11 12
普及・啓発 事業					
シマフクロウをシンボルとした環境教育事業	自団体 浜中漁協、散布漁協、浜中町役場、町民 散布小中学校	<p>豊かな海を育む森づくり学習</p> 	<p>環境保全事業(浜中町 森里海をつなぐ シマフクロウ地球の森づくり)の一環で、流域に関係する浜中町内小中学校1校と、町民を対象に合計2回、町内水源地にて在来種実生苗261の植栽を行った。</p> <p>植栽後、水源地に現存する樹齢推定380年の広葉樹巨樹が生息する森を訪れ、水源地における巨樹の働きや水源涵養機能、広葉樹が腐葉土を育て沿岸域の生態系に役立っていることなどについて理解を深めた。児童たちは、豊かな海にはシマフクロウが住める豊かな森が必要だと理解を深めている。</p>	6/27 9/2	15 38

シマフクロウ をシンボルと した環境教育 事業	茶内小学校 浜中中学校 霧多布小学校 散布小中学校	<p>森と海の繋がり学習</p>  	<p>シマフクロウが必要とする森と海をつなぐコリドーとしての川の働きや、上流の酪農業、河口の漁業との関係について知り関心を高める「森と海の繋がりを考える学習」を今年度も浜中町教育委員会後援のもと企画実施した。</p> <p>ゲームやクイズを交えたスライド、動画を通じて、シマフクロウが主食とする実物の魚を目の前で観察しながらその生活史を楽しく学び、生きもの目線で地域の自然や一次産業の関係について学び合った。</p> <p>今年度から座学後に川体験プログラムを加えた結果、学習した内容への関心が自ら高まる児童が多かったと学校から評価を得た。</p>	8/27 ～ 8/29	53
	自団体、 浜中町	<p>環境啓発イベントの 開催</p>  <p>基調講演</p>  <p>パネルディスカッション</p>	<p>地域の豊かな自然の継承と一次産業との調和のために、大地と海をつなぐ川の重要な役割や変化に注目しながら、その生態系によって成り立つ酪農業、漁業との関係を深掘りし、参加者同士で川の未来についてアイデアを出し合う啓発イベントを浜中町、浜中漁協、散布漁協、浜中町農協と共催にて開催し、45名が参加した。</p> <p>プログラム：</p> <p>◎サケ科魚類専門家による基調講演「私たちがサケから学ぶこと、次世代に地域の生態系を残すには」 / 北海道大学名誉教授 帰山雅秀氏</p> <p>◎R7年魚貝類調査報告 / NPO 法人シマフクロウ・エイド菅野直子</p> <p>◎パネルディスカッション「酪農業(大地)と漁業(海)をつなぐ川の未来」 パネラー：浜中漁協専務、散布漁協専務、浜中町農協酪農技術センター長、帰山雅秀氏、NPO 法人シマフクロウ・エイド菅野正巳</p> <p>◎参加者小グループによる意見交換会「魚が喜ぶ川づくりのために出来る事」</p>	11月	45

<p>広報事業</p>	<p>自団体</p>	<p>会報、ウェブサイト、SNS 等による広報</p> 	<p>当法人の支援者様を対象に会報を年 3 回発行し、季節のシマフクロウの行動紹介や、調査・研究事業、環境改善事業、教育事業など各取り組みや関連ニュース等を紹介し、当活動への一層の理解や関心を深めていただけるよう努めた。</p> <p>そのほか随時、SNS やウェブサイトを更新し、シマフクロウが直面する課題や当活動、関連するニュースなどを発信した結果、国内外のべ 10 万人以上に広報し、シマフクロウの保護保全への理解や当活動意義を発信した。</p>	<p>4 月、8 月、12 月</p> <p>通年</p>	<p>300</p> <p>不特定多数</p>
	<p>釧路新聞社、北海道新聞社、広報はまなか、浜中町地域協力隊</p>	<p>メディアによる広報</p>	<p>釧路新聞社、北海道新聞社、浜中町広報はまなか、浜中町地域おこし協力隊から計6回の取材を受け、環境教育事業・水源林再生事業・普及啓発事業を広く町内外にご紹介いただいた。</p>	<p>6 月、8 月、9 月、11 月</p>	<p>不特定多数</p>
<p>上記に付随する事業</p>	<p>(株)ダイナック、(合)ピッコロ、(株)アトリエ・モリヒコ、ソフトバンク(株)、NORTH CREATE HouseofOwls 順不同/敬称略</p>	<p>事業型連動寄付</p>  <p>サステイナブルな服作りで、シマフクロウ暮らせる環境づくりを応援 (出展：HouseofOwls 様)</p>	<p>シマフクロウと共生する環境づくり社会づくりの推進にご賛同いただいた企業・団体様等による商品やサービスの売上げの一部をご寄付いただく事業型連動寄付において以下6社からご寄付をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同会社 NORTH CREATE 様: 不要になった古本等の売上げによるご寄付 ・株式会社アトリエ・モリヒコ様: 珈琲商品の売上によるご寄付 ・ソフトバンク株式会社様: つながる募金サービスを通じたご寄付 ・株式会社ダイナック様: 「北国とミルク」事業の特定メニューによるご寄付 ・合同会社ピッコロ様: シマフクロウオリジナルキャラクター雑貨によるご寄付 ・House of Owls 様: シマフクロウオリジナルアパレルによるご寄付 	<p>通年</p>	<p>不特定多数</p>

特定非営利活動法人 シマフクロウ・エイド

〒088-1366 北海道厚岸郡浜中町茶内橋北西 85 番地

TEL FAX : 0153-65-2183 Email : office@fishowlaid.jp

<https://fishowlaid.jp/>